

令和8年3月18日政策調整会議

概要版

# 朝霞市 みどりの 基本計画

グリーンインフラの  
推進に係るマスタープラン

2026 ~ 2035

## 朝霞らしいみどりを

## みんなで育み 暮らしに生かすまち

朝霞市は、便利な都会の顔と豊かな武蔵野の自然を併せ持つ魅力的なまちです。しかし、この50年で市内のみどりは約15%も減少してしまいました。

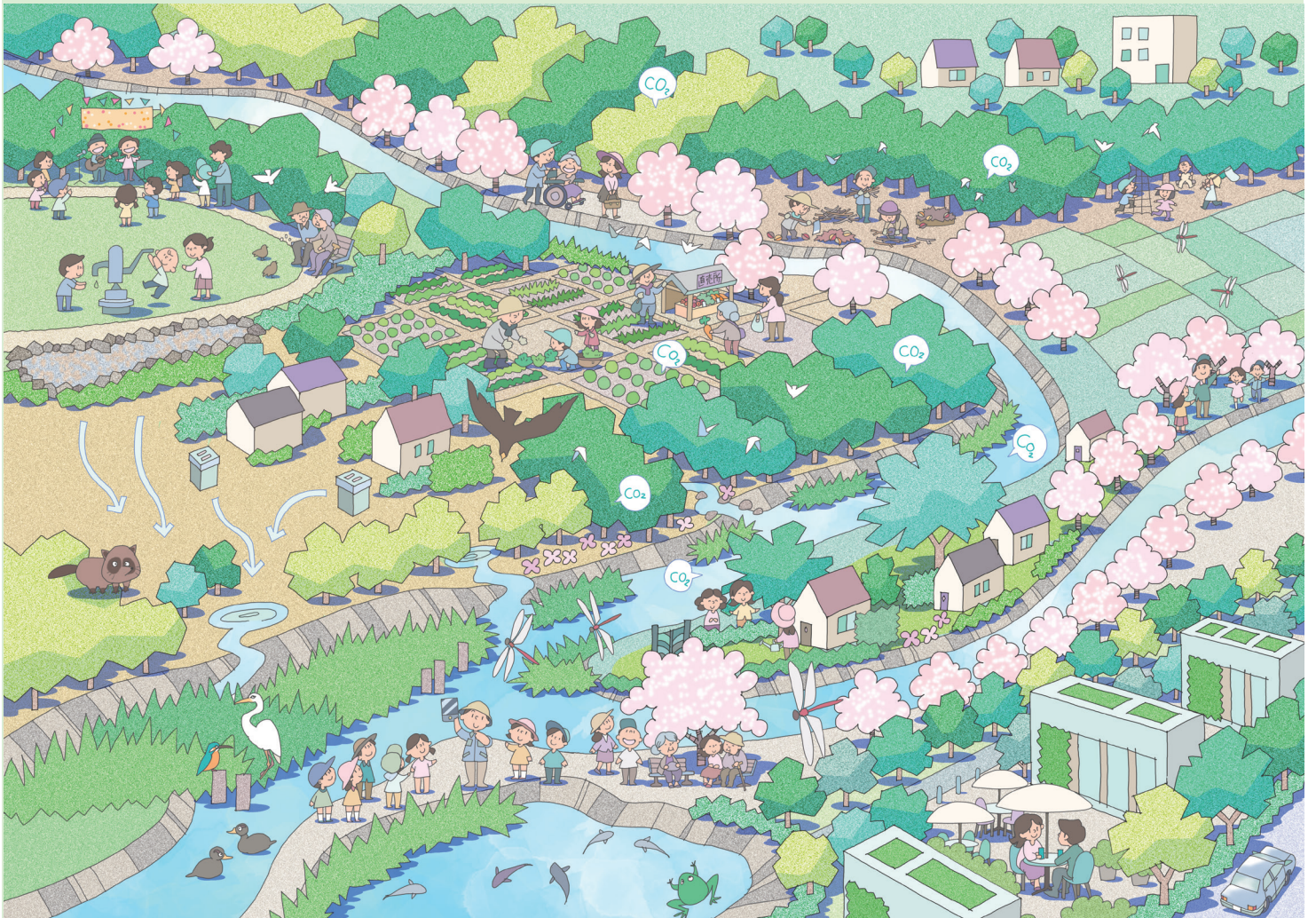
また、猛暑や豪雨など、近年の気候変動も私たちの生活に影響を与えています。この課題に向き合い、みどりの保全と活用を総合的に進める計画を策定しました。それが、これからのまちづくりの指針となるみどりの基本計画です。

今ある大切なみどりを守り、さらに自然の持つチカラを生かしていく。そのような、より住みやすく魅力的なまちづくりを、この計画とともに進めます。

概要版の構成



朝霞市キャラクター  
ぼぼたん

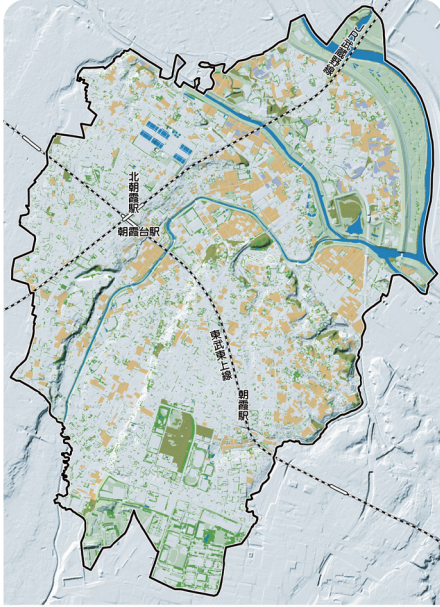


# 朝霞市のみどりの現状と課題

令和8年3月18日政策調整会議

## 減り続けるみどり

昭和48(1973)年には市の面積の49.8%がみどりで覆われていましたが、令和5(2023)年には34.8%まで減少しました。

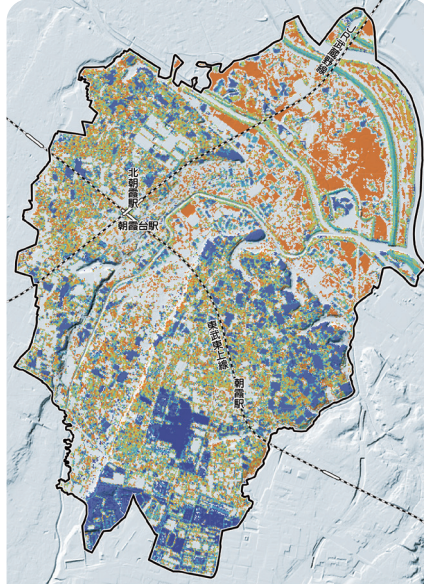


みどりの現状図

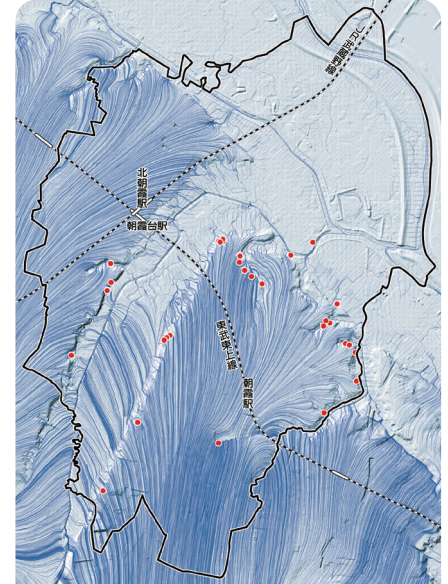
## みどりのチカラ

### 1 雨水を浸み込ませ貯めるチカラ

- 台地のみどりは雨水を吸い込み、人工被覆は氾濫リスクを高めます。
- 低地のみどりは、流域の浸水被害の緩和に貢献します。
- 湧水を守るカギは台地に雨水を浸み込ませることにあります。

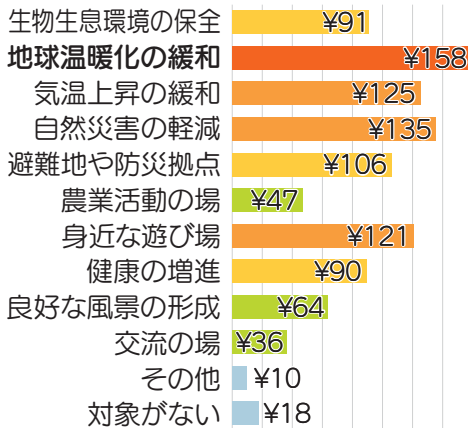


雨水の浸み込みやすさ

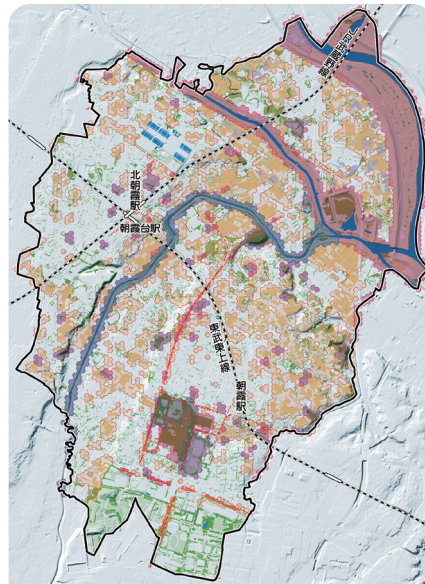


地下水の流れ

## みどりのチカラにお金を配分するとしたら



市民アンケート調査において、みどりが持つ様々な機能に対して、総額1,000円持っているとして仮定したらどのように配分するかという質問を行いました。



市民が豊か・魅力的と思う景観資源の分布

### 5 風景を彩るチカラ

- 黒目川と基地跡地周辺のみどりが朝霞のシンボルです。
- 斜面林や農地などの身近なみどりも郷土の風景を形づくる大切な景観資源です。

### 6 農の恵みをもたらすチカラ

- 担い手不足が農地の減少を加速させています。
- 市民の間で「農ある暮らし」へのニーズが高まっています。

市民アンケート調査の結果、今後取り組みたい緑化活動として「市民農園などで野菜や草花を生産する」が1位となりました。

## みどりの課題

みどりが持つ多様な機能を活かして、まちづくりや地域の課題に対応すること

みどりの減少を抑制し、保全すること

身近なレクリエーション空間を充実させること

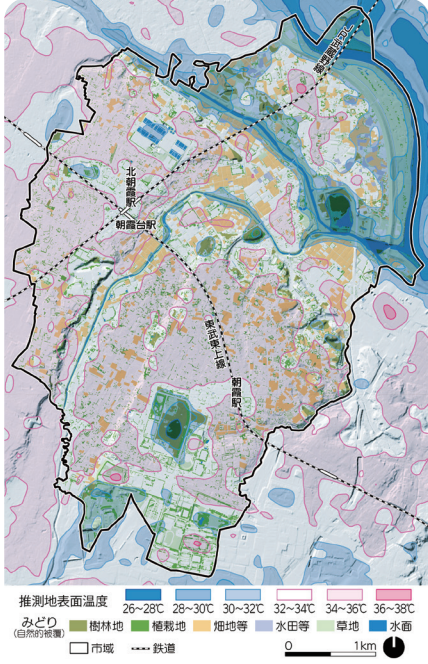
朝霞らしい魅力的なみどりをさらに充実させること

みどりの空間をネットワーク化させみどりに親しむ場を充実させること

公共空間の緑化を進めながら植栽などの適切な維持管理や更新を図ること

### 2 涼しさを生むチカラ

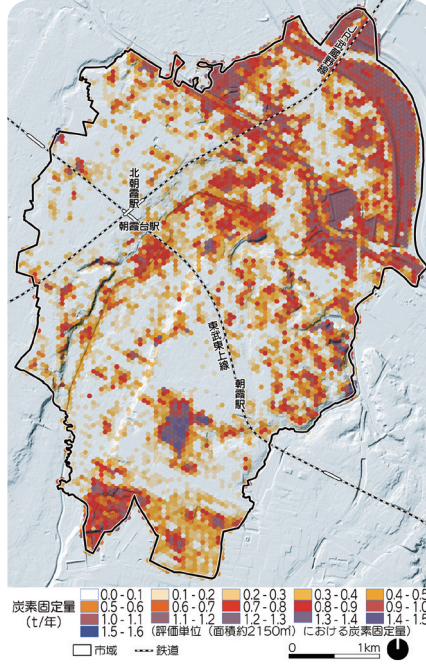
- 大きなみどりはクールアイランドとして冷気を広げます。
- 樹林地の減少はまちの温度上昇につながります。



みどりと涼しい場所の分布

### 3 炭素を蓄えるチカラ

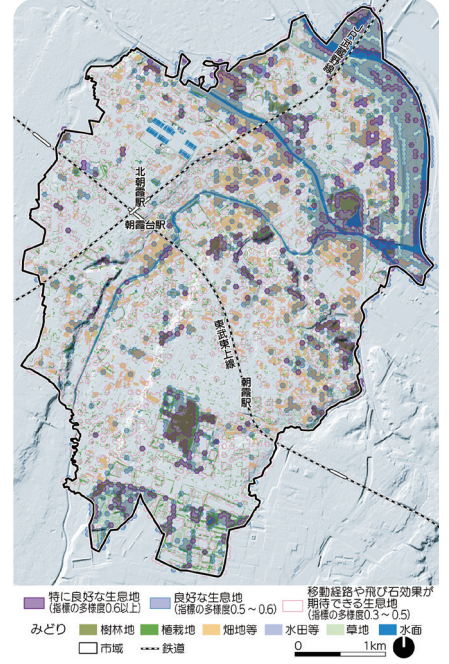
- 市内のみどりは年間約3千トンの炭素を蓄えています。
- 樹林地などのみどりが元気であることが大切です。



炭素を固定する能力

### 4 生き物の命を育むチカラ

- 斜面林や水辺は様々な生き物が生息する拠点です。
- 川や農地などは生き物が移動するための通り道となります。



多くの生物が暮らせる可能性が高い場所

### 7 心身の健康を保つチカラ

- 川沿いは遊歩道がありますが、住宅地では歩道の連続性が課題です。
- みどり豊かで安全に歩ける道が求められています。

市民アンケート調査の結果、今後の重要な施策として「みどり豊かで安全に歩ける歩道空間の整備」が1位、「身近な公園等の充実」が2位、「川沿いの遊歩道の充実」が3位となりました。

### 8 健やかな成長を支えるチカラ

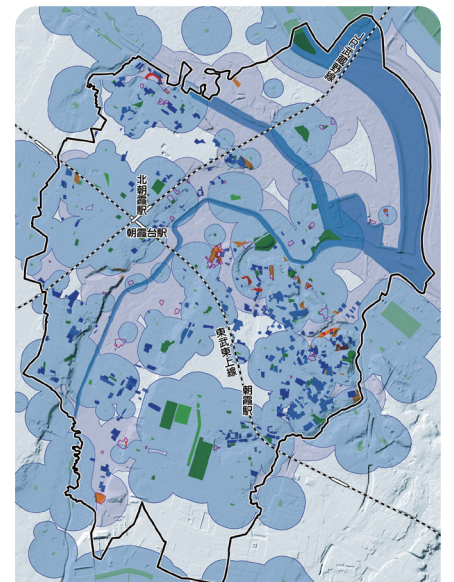
- 身近な公園が不足する地域があります。
- 川などの公園以外のみどりが身近な遊び場として役立っています。

### 9 交流を生むチカラ

- 公園に加え広場や河川空間など多様なみどりの空間がまちの活気を生み出すことに役立っています。

### 10 まちの安全を支えるチカラ

- 高齢者ほど身近なみどりを「命綱」として頼りにしています。
- 公園や都市農地は災害時に役立つ生きた備えとなります。
- 日常的にみどりを使いこなすコミュニティを育むことが地域防災力を高めることにつながります。



公園やみどりの空間の分布

エコアップや都市気候の緩和等へ貢献する民有地の緑化を促進すること

みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みの検討やみどりの普及啓発を進めること

多様な市民が参加し連携・協働しながら公園緑地の利活用の促進を図ること

朝霞のみどりを生かしたライフスタイルを内外にアピールすること

地域に根付く都市公園として利活用の促進を図ること

農業体験や自然観察、ハイキングなど自然とのふれあいの機会の充実を図ること

# みどりの将来像

## 1 基本理念

朝霞市は、武蔵野の面影を残す豊かなみどりに恵まれたまちです。台地上の畑や屋敷林、低地を流れる荒川や黒目川、斜面に残る湧水や樹林地、寺社などが、朝霞ならではの美しい風景をつくりだしています。こうしたみどりは、長い時間をかけて先人たちが大切に守り、育ててきた財産です。

みどりは景色として美しいだけでなく、農作物を育て、生き物のすみかとなり、大雨のときには水を蓄えて災害を防ぎ、夏の暑さを和らげます。また、私たちの心を癒し、日々の生活に安らぎと潤いを与えてくれます。

私たちの幸せな毎日には、身近なみどりが欠かせません。これからは、自然が持つチカラをかしこく利用するグリーンインフラの考え方を取り入れ、みどりを守るだけでなく、みどりが生活の中で積極的に生かされるまちを目指して、次の理念を掲げます。

朝霞らしいみどりを  
みんなで育み 暮らしに生かすまち

## 2 基本方針

基本理念に掲げる「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するために、3つの基本方針に沿って計画を推進します。

### 基本方針 1

暮らしを支え豊かにする  
朝霞らしい  
みどりを整える

みどりが持ついろいろなチカラをまちづくりに上手に生かしていく視点を取り入れながら、今あるみどりを守り、新しいみどりを生み出し、適切に手入れすることで、朝霞らしいみどりを豊かにしていくことを目指します。

### 基本方針 2

みどりを支える  
仕組みや担い手を  
育て・広げ・つなげる

古くから大切にされてきたみどりそのものや、それを守る市民活動、長年積み重ねられた知識やノウハウは、朝霞市のかげがえのない財産です。この財産を大切に育みながら、活動する人同士を柔軟につなぎ、協力の輪を広げることで、みんなでみどりを支えていく仕組みを目指します。

### 基本方針 3

みどりのある  
暮らしを楽しむ

みどりの魅力をより多くの人に知ってもらう機会をつくり、見るだけでなく、触れて体験することで、日常生活の中でみどりを身近に感じて楽しむ心地よい暮らしを、まち全体に広めていくことを目指します。